

第9回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和7年1月23日 木曜日 午後1時30分～午後3時00分

場 所：洞爺湖町役場3階 第2委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	○	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	○		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	○	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	×
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	×
	泰地 ひとみ	○		田伏 ひとみ	○
	京谷 常美	○		三浦 和則	○
	宍戸 一江	×		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	○
	川上 由起子	○	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	○
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	○			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

社会教育課 角田課長

○細江教育推進課長

皆様こんにちは。現在の出席者数は 17 名でございます。審議会条例第 7 条 3 項の規定に基づき、委員の過半数を超えておりますので、ただいまから、第 9 回洞爺湖町教育行政審議会を開催させていただきます。

次第 2、教育長挨拶。

○渋川教育長

本日をもって、この度の教育行政審議会が閉じられるに当たり、会議の冒頭ではございますが、一言お礼のご挨拶を申し上げます。

まずは、鈴木委員長様、上林副委員長様はじめ、委員の皆様には、本日も引き続きの会議ではございますが、1 年以上に及ぶ長期にわたって、慎重にご審議いただきましたことに対しまして、衷心より厚く御礼申し上げます。私も審議会開催ごとに議事録を拝見し、洞爺湖町の子どもたちの将来に思いを馳せ、また、未来の洞爺湖町教育への夢を託された、皆様方の熱量を感じ取らせていただいております。今回は、「洞爺湖町立学校における特色ある学校づくりと教育環境の向上に関する総合的な方策について」を諮問させていただきました。とりわけ、総合的な方策としての幅広いご意見を頂戴したいと考え、教育関係者だけでなく、経済団体や自治会の皆様、更には、公募による地域の皆様にもお集まりいただき、教育のいわゆるソフト面とハード面から、多面的・多角的なご意見をいただけるものと、重ねて感謝申し上げる次第でございます。

私たちが暮らす洞爺湖町は、平成 18 年 3 月に旧虻田町と旧洞爺村が合併し、再来月、3 月で丸 19 年となり、4 月の新年度からは 20 年目の歴史を刻んでいくこととなります。審議の中でも触れられていたと思いますが、町村合併当時 801 名ほどいた児童生徒は 390 名へと半分以下に減少するとともに、小中学校校舎や学校教育関連施設をはじめ、社会教育施設の多くで老朽化が進むなど、これまでの良いところは生かしつつも、変化に対応する仕組みづくりや枠組みづくりを早急に進めていくことが喫緊の課題となっております。これらのことを考えていくとき、公教育においては、不易と流行を意識しつつも、スタンダードとしての教育の機会均等と教育水準の維持向上に努めることが大切であり、まずは、同じ町に暮らす子どもたちが等しく質の高い教育を享受することのできる教育環境を目指し、1 つの町としての教育のあるべき姿を確立していく必要があると考えております。

現在、老朽化の著しい虻田中学校を虻田小学校に移転させる方向で検討を進めておりますが、今後、皆様からいただきます答申を元に、小中一貫教育の導入、施設の統廃合や複合化など、洞爺湖町に相応しい教育のあるべき姿を町民の皆様と一緒に形作ってまいりたいと考えております。併せて、本審議会の設置目的にありますとおり、洞爺湖町教育の振興と発展を図るとともに、教育に対する課題やニーズに迅速に対応する観点から、3 年の任期中に、継続、あるいは新たにご審議をお願いしたり、教育委員会が進める様々な施策に対するご意見をいただいたりする場面もあろうかと存じますので、引き続き、洞爺湖町教育の推進にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この度の皆様のご協力とご労苦に対しまして改めて深く感謝とお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願い致しますそしてこれまで大変どうもありがとうございました。

#### ○細江教育推進課長

続きまして次第3、鈴木会長挨拶。

#### ○鈴木会長

改めましてこんにちは。昨年はこの審議会の進行等に各委員の皆様方よりご協力いただきまして本当にありがとうございます。既に答申案という形で目を通されているかと思いますがここまで来たということで、今日はこの後まだ（修正案）ですので、各委員の方からも意見をいただきながら、何とか洞爺湖町の子どもたちのためにという形で、この答申を諮問を受けた教育長の方にお渡しできればなというふうに思っております。今日もよろしくお願いいたします。

ちょっと話が変わるんですけど、非常に今日は暖かくて、もう春じゃないかなと思いつつ函館を9時半ぐらい出たんですけども、結構路面がツルツル状況で、その中でこちらの方に近づくにつれて暖かくなって、すごく穏やかな気候だなということを改めて感じました。洞爺駅の前を通りますと、観光客の方々が30～40人ぐらいバスに並んでいるということで、こんなに観光客の方が来ているんだということで、また違った洞爺湖町のあり方といいますか、いろいろな場面を見させていただいたと思います。

こんなことも絡めながら、今日は各委員の忌憚ない意見をいただければと思いますので併せてこの後もよろしくお願いしたいと思います。それでは早速審議の方に入りたいと思います。

次第4の議事ということであります。

(1)「今後に向けて」それから「各委員から出された意見について」ということで、まずは事務局の方から説明を受けて、それを踏まえて各委員とやり取りをしたいと思います。

#### ○山本教育指導参与

どうぞよろしくお願いいたします。お手元の資料をご確認ください。答申（修正案）と答申（案）に対し各委員から出された意見という資料です。

昨年12月に第8回会議を受けて、答申案を事務局の方で作成をいたしました。12月に送付をいたしまして、委員の皆様から様々なご意見をいただき、それらを基に意見をまとめさせていただいた部分と、全体を通してというところで、4ページにわたって意見をまとめました。

1ページ目に関しまして、答申案に対し各文章の表記や表現、内容の部分で誤字脱字も含めて修正を加えまとめさせていただきました。4ページ目の部分は全体の意見としてまとめさせていただいております。この中では、今後に向けてもう少し方向性に具体性を、というような意見がありましたので、その全体的な意見を踏まえた中

で修正後の確認をし、ご意見をいただきたいと思います。

4 ページ目の全体的な意見というところを一つずつ見ていきたいと思います。一番目、審議の中で小中一貫制度の導入の方向性については全体の理解が得られたと思います。虻田小学校の校舎に虻田中学校が移転する予定なので、それを小中一貫校のモデルとし、そこでの成果や課題を町全体で共有していくことが大切ではないかというところです。

令和8年度に虻田中学校が虻田小学校に移転するという予定で、段階的に移行を進めていく中で、ハード面も含めてソフト面においても成果課題を共有しながら、少子化の中で質の高い教育を展開できることが大切だというふうに考えております。

2 番目、今後の洞爺湖町の教育の充実は、町全体で町民の皆さんが子どもたちの教育や生涯教育により積極的に参画することにかかっている。本答申がそのきっかけになって活用されることに期待したいというようなところです。

町の教育充実に向けて、地域と学校が連携協働することが大切であると思います。学校を卒業した後も生涯教育に繋げていく仕組み、仕掛けが大切であるというふうに考えています。

3 番目、今回の答申では、「結論を一つにまとめ上げるのではなく、多面的・多角的な視点を重視して各委員会から出された主な意見等を網羅的に総括する形式で」と示したことに賛同しますが、「もう少し方向性を明確に」という意見も最後の会議で出る可能性もあるように思います、ということです。

本答申は幅広くというところで、多面的・多角的というところでご意見をいただきました。網羅的というところもあるかもしれませんが、方向性という部分で、今後はこの答申をもとに各検討委員会で具体化していくというようなことで予定しております。今後は中長期的なスパンで、先ほど教育長がおっしゃったように、町の教育に対する課題・ニーズに対応するため、町の教育ビジョンの見直しなどについて、教育を議会に諮問させる場合もありますので今後ともよろしくお願いいたします。

4 番目、21 ページの「各委員会から出された主な意見等を網羅的に総括する形式で示すことを基本とする」と記載していますが、審議会の記録的な内容となり、答申としての具体に乏しいと感じる。また、「特色ある学校づくりと教育環境の向上の総合的方策」とありますが、教育環境に関する割合が多く、学校づくりに関する具体が少ないというふうに感じた、というところです。

第4回目と第5回目にワークショップを実施した中で、ソフト面の部分で地域全体をフィールドとして洞爺湖町の豊かな自然、産業、そして豊富な教育資源を活用しながら、子どもたちが夢に向かって挑戦できるよう主体性を持って、多様な人と関わりながら、課題を見つけたり、課題解決を図るよう育めるよう、そのための学びの場、また、繋がりづくりが大切であるというようなところで、各ワークショップの内容等を掲載して、その部分を含めて今後、各学校のカリキュラムを見直したり、ふるさと教育の充実に繋げていきたいと思っております。

5 番目、35 ページの「地域性の意見」というところで、本審議会においても虻田地区と洞爺地区の地域性の違いが多く出ていたと思う。教育（学校）にかける地域の住民の関わり、給食に地域が多く関わり食育を大事にしていく思いなど、温度差があっ

たと私は感じました。書きづらい部分ではありますが、洞爺湖町は合併している自治体であるため、学校や教育に対する姿勢に温度差があり、特に学校の一本化はなかなか難しい地域性や住民の思いがあることを記載できないでしょうか、というご意見がございました。

学校の一本化というのは、なかなか難しい地域性や住民の思いという部分に関しまして、感情的な部分というところもありまして、この部分の記載は控えさせていただきました。理由としましては、地域間の対立を助長させる可能性があるんじゃないかというところで、虻田地区と洞爺地区の地域性の違いについてのご指摘は理解できるんですが、公式な資料として公表するという部分で、不必要な誤解や対立を生む可能性があり、地域間の認識の違いを強調しすぎる懸念があるという部分。二つ目として、洞爺湖町は平成 18 年に合併した自治体であり、今後の施設の統合であつたり、子どもたちが一緒に活動する場面が多くなり、一体性を重視する活動が求められてくると思います。地域ごとの違いを強調しすぎることで、一体性を損なう印象を与えてしまう可能性があるということで、この部分に関しては控えさせていただきましたのでご理解のほどお願いいたします。

6 番目、全般に対して。今現在の若い人たちの意見をもっと聞いてみたいです。私は本町の小学校、中学校、高校と、地元就職し、結婚を機に洞爺湖温泉に住み 39 年、この町と共に過ごしてきました。時代の流れを感じています。今現在、洞爺湖町に住んでいる若い人たちの望むところは何なのか、会議に出席して情報がないのが残念です、というご意見をいただいております。

この後、2 月に 5 校合同の学校運営協議会を開催する予定になっております。この答申をもとに保護者へアンケートを実施する予定をしており、その中で情報を集めていきたいと思います。

7 番目。お忙しいところ答申案をまとめていただきありがとうございます。両極端ではないものの、意見のばらつきが多い部分は教育委員会にてどのような答申として取り扱いをするのでしょうか、答申案を見て疑問に感じた次第です。何か方向性を決めるものが答申になるのかと思っておりましたので、方向性が見えない意見の羅列だと、どのような流れで決定していくのか疑問に思った次第です。上記の意見も含め、分かりづらい文章で申し訳ありませんがよろしくお願いいたしますというところ です。

今後の部分に関しまして、この答申をベースにしながら学校運営協議会等の部分で方針を示しながら、令和 8 年度に虻田中学校が虻田小学校に移転という予定をしております。その後、施設の統廃合、ハード面であつたり、小中一貫教育の導入に向けてソフト面についても答申を元に保護者や地域の声を聞きながら具体化していくということで考えております。

8 番目。委員以外が検討する際には工夫が必要かと思います。今後の進め方を最後の審議会で話し合っておくとよいのではないのでしょうか。というようなご意見があります。

この答申は 51 ページございます。これを今後、各委員会や学校運営協議会の中で全部説明して理解していただくというのは大変だと思います。その中で、この内容の部

分を一部抜粋し要約しながら、会議に参加された方が理解できるよう工夫をしていきたいというふうに考えております。

全体的な意見ということでまとめさせていただいたところです。今後に向けてということで、令和7年2月に学校運営協議会を行い検討委員会を立ち上げ、5年後、10年後、そして20年後ということで考えられる部分で、この答申をベースにしながら長いスパンで検討していくというところになっていきます。今後の審議会の開催に關しまして、教育ビジョンや様々なニーズ、課題等、必要な場合もございますので、新たに審議会を開いてご審議いただく場面も出てくるかなと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます。今、事務局の方から各委員から出された全体的な意見について一つ一つお話をさせていただいたところです。その中で、5番の地域性の部分については、いろいろ課題もまだあるので、というようなことが事務局よりありましたのでこれは置いておきまして、各委員の全体的な意見について、何か各委員の受け止めというんでしょうか、感想等あればお話しいただければと思います。

#### ○委員

この答申の案をもらって読み始めたんだけど、途中で挫折してしまいました。やはり理解をしながら読んでいくにはなかなか。会議を何回も欠席しているんで、全体が見えない部分もあったんですけども、いろんな意見が出て、これを現実的にどうやって現場に持っていくのか気になるんで、その方策なんか、これはまた別な組織とか別なところで考えるのかなというふうに思いながらも、なんかこれは大変な事に足を突っ込んだなと思ったんですけど。教育だけを取り上げて議論しても、この町全体がどうなっていくんだろうという未来像がないと、これも進めて行けないのかな。町の産業には農業や漁業、観光がある、その中に子どもたちも入ってもらって、みんなで話し合う。そういうことが必要なのかなというふうに思います。

人が増えてくればおのずと解決する部分なんかもあるしね。子どもたちにかかる金は、ケチらないように行政に言っておきたいですね。教育は大事だと思います。

以上です。

#### ○鈴木会長

どうもありがとうございます。

結局、考える上でも地域づくりというか、これからの洞爺湖町をどうするのか、ということもある程度見据えた上で議論をしていかないと、何か絵に描いた餅のような感じでという、そのあたりかなと思うんですけど。例えば、私も事務局に質問したいんですけど、この答申はそういう地域づくりの会議や、または地方創生といいますか、その辺りの町長部局の会議の話題にもこの答申が出てくるのか、そのあたりはどうなんでしょうか。

○山本教育指導参与

修正案の8ページの部分で、第2期洞爺湖町まちづくり総合計画というのがあります。当然そういったマスタープランの中で教育というのを位置づけて、方向性に基づいて進めております。そして、12ページにはまち・ひと・しごとの創成総合戦略というところでも町全体として、教育というところで考えていきますので、それは町長部局とも当然連携をしながら、というところで進めているところです。

○鈴木会長

ということは、この答申の内容についてはそういう会議等でも何か生かされるというか、参考資料としてとか、その辺りも含めて考えておいていいということですね。

多分そういう形で、将来的に我々の意見があるこの答申が関わってもらえると、ある程度方向性というのが見えるのかなというところかなと思うんです。そこからの切り込み口でもいいですし、その他、何でもいいんですけど、ぜひここは各委員から出された内容も含めて賛同しているものだから、何かそんなところもお話しいただいた方がいいのかなと思うんですけどもどうでしょう。

○委員

私は答申案を見たときに、結局これは実現するものなのかという、実行に移るまでのスパンというかタイムスケジュールじゃないですけど、これがすごく気になって。話し合った結果、これで何かが起こるんだろうかというか、予算とか先ほどお金を使わないといけないという話があったと思うんですけど、どういうふうになって行くのかがちょっと見えてこないというのが心配なんですよね。

話し合いましたっていうだけの、そういう場がありました、というだけの話で終わっちゃうんじゃないかという、実際どうなっていくんだろう、どういうふうに進んでいくんだろうという、そこがちょっと見えてこないと思います。

○鈴木会長

おっしゃるとおりだと思います。やっぱり文字だけではなかなかストンといかない。先ほど委員の方も読むのを途中で断念してしまったという、私も見たときまず文字が多いなと思いながら、ただ、この答申が具体的にどう進んでいくのかという、そういうスケジュール感とかがあると、各委員の関わり方というものもあるのかなと思います。そのあたり事務局の方はどうですか。

○山本教育指導参与

今回、多面的、多角的に幅広くご意見をいただけてきました。これをベースにしながら2月には学校運営協議会を予定しております。学校施設の適正配置の部分も含めて、令和8年度で中学校の移転を予定しているんですけど、その後段階的にどうするかというようなところはみなさんの意見を踏まえた上で、その成果課題を踏まえながら、またソフトの部分に関しましてもご意見をいただいていますので、そういった部分も含めてソフト面そしてハード面を義務教育学校、小中一貫教育の部分に関しま

して、早急というところもある中なので、令和7年に委員会を立ち上げてそこで協議をして、それぞれ幅広いので、学校や給食センターなどいろいろな部分があるので、それを同時にということは難しいかもしれませんが、令和7年からスタートして一定程度の方針は出していきたいというふうに考えています。

○鈴木会長

今、事務局から話がありましたけど、何年度までにこうするというのが具体的に見える部分もあるんですね。

例えば、虻田小学校に虻田中学校が移転するだとか、具体的にわかるスケジュールもあれば、今後検討していくというスケジュールもあるという、ざっくりでもスケジュール的なものが何か見えてくると委員の方々も、ここでこういうタイミングでとか、こういう会議でとか、というふうになるのかなと思います。その辺りを答申の中に具体的に入れ込むというのは難しいんですか。

○山本教育指導参与

今現時点でわかってる部分ということでしょうか。

○鈴木会長

そうです。そうすると少しでも委員の言う、意見は出し合ったけど具体的にはというところで、確かに答申は進んでいくものではなくて、多面的、多角的に見て各委員の幅広い意見を集めたというか、言っていた内容を整理した、というものが答申という形でここにたたき台として出てきていますけど、それを具体的にどういうスケジュール感で行くのかという辺りが見えてくると、より各委員の方も納得するのかなと思うのと、自分の言った意見がストンと行くのかなというふうに思うんですけども。他の委員から、もしそういう声があればと思うんですけどどうでしょうか。

○委員

子どものことをやっている、どんどん学年が上がって卒業したりするので、いろんな活動あっても自分の子どもが、例えば小学校に入れば、その小学校の活動にはすごく主体的に関われるけど、卒業したら離れちゃったりとか、子どものことってそういうタイミングがすごく重要だし、結構地域にこういうことをちゃんと考えるというか、本当にいろいろ関われるプレーヤーみたいな方がその時々でいるかいけないのかも出てくるので、この時期までにこういうのをやると決まっていれば、各地域の思いのある人たちも団結して、私達でも何か意見を出そうとか、何かそういうことがあると思うんですね。多分うちの地域だとそういうふうになるんじゃないかなって思っているんで、ぜひ、スケジュール感みたいなものがあれば一つ加えていただきたいです。

○鈴木会長

やはりスケジュール感、何らかの形でスケジュール的なものがあればというのがあるので、これはぜひ事務局の方でも検討していただいて、決まってるものというか、



ある程度見えているものは明記できますけど、まだまだ不透明なところ、多分予算もかかるでしょうし、いろんな組織的なものもかかると思うので、その辺りはちょっと置いて、第1部が各計画を答申の中に載せているんですよね、多分この計画というのは4年、8年という1つのサイクルの中で計画づくりが進んでいるはずですから、その中で次の計画を立てる上で、この答申が活用されとかが見えてくると、結構この場面で生かされるのかなというイメージが湧くのかなと思うので、ぜひそのあたりはご検討いただければと思います。

その他に、全体的な意見の中でお話があれば、ぜひ出していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

#### ○委員

捉え方として、答申というのは基本的に今後の指針ということですよね。個別の案件についてはまだ解決できていないのがたくさんありますよね、学校の統廃合の問題だとか小中一貫教育とか、あと給食センターとか、個別の案件については新たにまた検討委員会みたいな形をやって、趣旨に基づいてやっていくっていう考え方でいいんですよね。

#### ○山本教育指導参与

はい

#### ○鈴木会長

よろしいですか。諮問を受けて答申と言いながらも、ある程度の指針という形で、これからの方向性というところを幅広く、いろんな角度からこの答申案の中に盛り込んでいったといふところなので、各委員の声も様々な形で載せられているというところ。委員の意見にもありますように、議事録的な内容が要素として強いというのも、そこは致し方ない部分かなと思います。そういう形で受け止めていただきながら、あとスケジュール的なものがほしいというところが、委員の中から出されているのかなと思います。その他いかがでしょうか。

#### ○委員

ここで考えたのは、私は地元の小学校の卒業生なんですね。その頃だと大体1クラス50人ちょっとで、1学年で5、6の学級があったんですね。みんな何か雑草のように育って、生活がすごく大変だったんです。もう本当にいつも「こらっ」という声で先生がどこにいるかわかるような、だからそういう多様性でもあったし、競争でもあったし、ある程度的人数が集まると、いろんな子が集まるんですよね。それが自然に多様性だったり許容性になったり、強力になったり忍耐になったりというので、多分、ある意味で今の子は結構大変だと思うんですね。だから、違った教え方とか違ったアプローチというのが必要だと思うんですけど、

例えば北欧の方だともうそのことは心配しないで、教育の質を上げましょう。1人1人のパフォーマンスが上がるような教育に転換していけば、会社でも利益がたくさん

あるような会社にしていきましょうっていうことで、先生たちのクオリティが、その少ない人数ですごくいい授業をやって行くというふうにシフトしたらいいですね。なので、人口減少というのが避けられないのだったら、その人財みたいなものをもっと、ただ、これは現場の問題なので先生とかの努力とか、そういうことなので何とも言えないんですけども、多分そういうふうに考えることも必要かなと思うんです。

政府からの大学予算も、0.4%ぐらい削られてるというのを聞いたことがあるんですよ。人材を育てるのにお金が必要なのに、実は教育予算っていうのがあまり出してもらえてないということがあるので、さっきお金を子どもにかけた方がいいという話しがあったんですけど、本当に時間も手間もかけた方がいいと思うので、統合することでマイナス面が出ないようになってほしいと非常に思いました。

#### ○鈴木会長

どうもありがとうございます。

多分、これから小中一貫校を一つのモデルと言ったときに、どれだけの教育予算をかけながら質を担保していくのかという辺りが、これから非常に大事な洞爺湖町の教育の一つだという、そういうような話しかなのと思うので、その辺りも含めながら、この内容に指針として示されているところ、ぜひそういう場で生かしていただければなというふうに思います。

今の委員のお話を受けてどうでしょうか。学校関係の委員の皆様方、何か感じることあれば一つお話いただければと思いますけど。

#### ○委員

今、うちは特に少人数で進んでおりますし、今日も午前中、虻田高校さんに中学2年生が学校見学という形で見させていただいて、虻田高校さんも少ないながらも、みんなで協力しながら、生き生きとやっている姿を見ました。逆に少ないからこそすごく協働的な学びが進みやすいんですよね。

今、委員さんがおっしゃったところで、私も次に取り組むべきところは個別最適な学びというか、1人1人のパフォーマンスをどう上げていくかということですので、これ小さい学校に関わらず、全国的にそういう動きで、1人1人の子どもたちの力を伸ばしていこうというのは国も進めているところですので、これからも多分同じように考えてらっしゃると思います。

#### ○鈴木会長

やはり、そういうようなことをいろんな角度からやっていくという、ソフト面のお話しがあるかなと思うんですけど、この審議会でもワークショップで子どもたちにどんな力をつけてもらいたいのか、ということも確認で示されたものがありますので、これも当然この答申の中に盛り込まれていますので、いろいろ関わりのある諸会議の中で、ぜひこの答申の内容も活用していただければなというところです。

あとはどうでしょうか。

○委員

今回、教育長宛に答申を出すと思うんですが、みなさんの貴重ないろんな立場の方の意見が、網羅されている部分では本当に貴重なものだと思うんですが、公開はどの程度までされることになるのでしょうか。

○山本教育指導参与

公開する予定です。ただ、委員会等でこれを全部印刷してお渡しして説明するとなると大変ですので、そういった場合には一部抜粋をして、説明しながら進めていきたいというふうに考えています。

○委員

今回の答申を見たときに、いろんな意見がいっぱい網羅的にということなんで、それぞれあつて相対するもの、いろいろあると思うですよ。

この審議会の中でこの意見について、特にその賛成とか反対だとかということではなく、それぞれの貴重なお話が出ていました。そこで、読む側が例えばこの一つの意見があったらそれを必ずやんなきゃいけないということではなく、やっぱこういう意見が出たということで見ただけだと理解してよろしいんでしょうかね。

○山本教育指導参与

はい、様々な視点を持ってということで、今後どうするのかというところで絞っていききたいというふうに考えています。

○鈴木会長

非常に大事な「公開」というのは、一応各委員もそれぞれ代表という形で集まった場ですので、この審議会も議会承認の部分もあるので、そういう点では町民にどういうふうに還元していくかということは必要なところなんです。その公開のあり方ですね、やはり一点を見ているいろいろ突っ込むというか、関わるわけではなくて、先ほど申し上げたこの答申は指針という方向でということなので、その辺りも前提として、公開の内容も考ななきゃいけないところかもしれないですね。

○委員

諮問が、教育長の方から会長さんの方に諮問文として来て、答申はおそらく教育長様で答申すると思うんです。

ということは、「公開」というのがあるのかなと思っているんですけど。これは教育長宛に出している答申になりますよね。それを教育長以外の人が見ることになるので、中身を全部そのまま載せるというのが、答申として果たして良いのかどうか。教育長宛ですよ、当然答申の中身なので、全てが叶うと思ったら間違っていると思うんですよ。

この意見の中で教育長の方で、この部分はここに降ろそうとかという話で、この中の何個かが多分成り立つ、だから全部公開してしまったら、さっきこう言いましたよ

ねとか、多分町民の方から話が出てくると思うんですよね。であれば公開が必要なのかどうかということだと思うんですけど。

○細江教育推進課長

答申に関しては今の時点では全てを公開する予定ではないです。これに基づいて、それぞれの部分の内容の概要版をつくりまして、概要版の公開という形で考えております。この9回行われた審議会の中で、こういう部分の意見があって、こういう形で次の方向に向かって行くというものを示した部分で、概要版の作成をこの後する予定でおります。

○鈴木会長

ということは答申の要素は概要版に盛り込んだ形で公開をしていく、という形なんですね。

そのように事務局の方では考えているという形で、今委員から言われたように、諮問を教育長から受けて答申を教育長に返すという、いわゆる将来の洞爺湖町の子どもたちをどうするかというところのあり方での答申をしたので、それに関わる会議とか、またはそれぞれに関わる計画とかについては関連付ける要素はゼロではないという形ですね。そういう形で全てこれを公開するというわけではなく、先ほど言われたように、全部公開してしまうと「あれはどうなんだ」というところがあるので、そこを前提としてというのがこれから事務局の方で公開という形を考えていくと捉えていただくのもいいかなというふうに思います。

○委員

12ページに出ている教育ビジョンとまち・ひと・しごとですね、この策定のところに僕も公募の委員で入って、話をさせていただいていたんですけども、今回この公開はその概要版でという形で、あとは教育ビジョンに関していくつか質問があって、まず、教育ビジョンは学校の先生方にはどういう形で伝わり実際に形になるのかなというのをお聞きしたいと思いました。

○鈴木会長

学校の先生方も町民の1人ということで考えたときに、町民の、とりわけ学校の先生方も含めてという形ですね。

これは先ほどの回答と同じような内容ですね、とりわけ学校の先生方にこれについてお話をすることではないですよ。

○山本教育指導参与

例えばホームページとかにアップされていると思いますので、目に触れることができるかと思います。

○委員

まち・ひと・しごとの方をやっていて、KPI と書いてあるところ、数値目標ですが、この中でいくと虻田高校の入学者を毎年 21 人というところ、まち・ひと・しごとというのは 5 ヶ年戦略なんですけれども、あとは魅力等を学ぶ学習体験の取り組みがこの部分、これだけしか戦略としては出てこないところで、実際に幅広くいろんなお話をした中でそれを実現していくというのは既にいろんな計画がある中だと、なかなかそれが横断的に反映するというのはすごい難しいなと思っているんですよ。

そこで、この会議の中で教育委員会の方でまとめていただいた 24 ページの下の方の三角形の図があるじゃないですか、これが見やすい概要版というか、大事なかなと。一番上の主体性というところで、僕が他の計画の会議にも出て思うのが、先ほどどなたかお話し出ましたけど、どうやってこれを実現していくのか、僕ら 1 人 1 人がこれからの生活の中でどうやっていけるかということを考えることがすごく重要だと思っていて、ここでこの議論を知っているのは僕ら委員なので、これを皆さんが各所でどう実現できるか 1 人 1 人が考えなくちゃいけない、その 1 人 1 人が町をつくっているという感覚がある中にいるから子どもたちに主体性が育つんだろうと、そういう大人の姿を見てもらうということ自体が主体性がある子どもたちになるんだろうと。先ほどの委員の話にもありましたが、この地域の問題をすごく考えてくれてる人たち、何とかしようと思う人が実際に学校を離れてしまうと、疎遠になってしまうという、これもすごくそのとおりでなと思うんで、例えばそういう人たちの声を定期的に洞爺湖町に伝えるような形ができるとか、そのようなことを僕らが探すということなんじゃないのかなっていうのをちょっと感じました。

#### ○鈴木会長

すごく大事ですね。やはりここだけでは終わらせないように、いろいろ頑張ってるとか、そういう頑張ってる方々のところにも伝わるような、何か仕掛けみたいなものもあるといいんじゃないかという。ここは審議会の委員ですけど、各委員はその他にも別の会議の委員をやっているとか兼ねてる部分も結構あると思うので、そのあたりは、ぜひ、この審議会の委員の意見としてというのは、繋げていただくのも一つなのかなと思いました。

どうでしょう、他の委員の方々からあれば、この全体的な意見の中でも实际的に具体的にアンケートを取るというような動きもありますので、幅広く声を出す部分が結構出てくるかなという感じがするので、そこも含めながら、これからこの答申が具体的にどういう場面で活用されていくのかということに取り組んでいくことも必要かなというふうに思います。

それでは、この議事の 1 についてはよろしいでしょうか。

《なしの声》

それでは、議事の 2 番目、答申案の内容について。

これまでに答申案の内容についてもいろいろ出されていますが、まずは事務局の方で説明をお願いいたします。

#### ○山本教育指導参与

修正案の部分と、皆様からの意見をまとめさせていただきました。1 ページ目から確認をして見ていきたいと思っておりますのでよろしく

まず、目次の部分で赤字で修正しています。目次の部分は第2部各論の1番(2)のイの「から」というところです。1 ページ目へ行きます。「はじめに」というところです。赤字のとおり修正してございます。大きくは点が5つあるんですけども、4つ目になります。今後特に小中一貫教育や義務教育学校を早期に導入というようなところがありましたので、そういった部分を追加しております。点の5つ目に関しまして、主に施設の部分に関しましては、社会教育施設の集約化と多様途施設への複合化を進めること。また、社会教育コーディネーターの発掘と育成というところで、その部分を増やしております。「はじめに」の部分は主にトップページといことで、この5つをメインにということで2つ追加しています。

次のページ以降は各種計画というところになっております。修正点は9 ページ目、改行と文字の修正を入れております。12 ページの部分は(3)教育ビジョンの「改訂版」というところ抜けておりましたので追加しています。第1部のところは以上です。

第2部各論です。21 ページの中段に下線を引いております。この部分に関しまして、今後5年から10年間の長いスパンで考えていったときに、意見等を網羅的に総括する形式でということで下線を引いております。

22 ページは下に7行を追加しております。第4回目のワークショップを受け、第5回目のワークショップに向けていうようなところで、繋ぎの部分で皆様から出された意見をここに文章で追加いたしました。

27 ページの部分は、優しさ、思いやり、協働の枠の中に個別最適な学習という部分で、1人1人に目を向けた特別支援教育的な視点での教育というのが大事になってくるところ。あと、27 ページの下に学校運営協議会並びに教育行政等については、「今回の意見等を十分に検討しながら特色ある学校づくりに向け、ともに協力」とい文言が追加されております。

28 ページに関しましては、子どもの数が減ってきて適切な学習集団や学校を維持していくためには、人数との関わりと、小中一貫教育という考え方のところに「学びの質の確保等の観点から」という文言を追加いたしました。その下の部分に関しましては、人数がある程度いることで、お互いに刺激し合いながら、その中で主体性などが生まれて来ることから、「求める子ども像」へ繋げていくこと」というところで、文言を修正追加しております。

29 ページにいしまして、小中一貫教育制度の導入に向けてというところで、下の「このことに関わって、委員からは」というところで箇条書きで載せていたんですけども、ここの部分がちょっとわかりづらいというご意見ありましたので、ある程度項目がわかるようなところで、「児童生徒について」、「教職員について」、「地域や保護者について」、「計画や導入時期等について」、「施設活用の面から」、「予算について」、という項目をつくり、皆さんの意見をその項目に仕分けするような形で、順番を入れ替えてまとめさせていただきました。また、30 ページの上の部分に関しまして、意見が重複していた部分を削除しました。

31 ページに行きまして、今回の審議においては「時代の流れの中で、当初計画と現状の比較分析、将来的なビジョンなどを早急に考える必要があるなどを早急に考える必要があるなどの慎重的な意見はあるものの」と追加させていただきました。

32 ページ、「今年度以降の出生児が減少するが、出生率低下を補うために、子育て世代の移住という視点において地域（特に洞爺）に学校があることの重要性についても考慮してはいかがかと思う。」と追加しております。

35 ページ、洞爺湖温泉小学校の建物の有効活用という部分がありましたのでこの部分に関しましても追加。

36 ページから 39 ページでは、若干言葉が抜けているところを追加しました。

42 ページで、「今後の学校の統廃合の枠組みや時期、町の予算、児童生徒数の減少など様々な問題や不確定要素がある中で、全てを満たす解決策は難しい。規模的に可能であるならば同じ町内の児童生徒として同一の給食を提供することが望ましいと思うことから、両給食センターを壮瞥町と同様、将来的には外部委託も選択肢の一つではないだろうか。」ということで追加、修正をいたしております。

44 ページいきまして、社会教育施設のところです。5 行目について、人口減少に伴う利用者数の減少、また将来的な財政負担の軽減を図るため、今後、施設の集約「や複合化」を追加。また、社会教育施設の集約化や統合を進める際には、社会教育施設の「集約化」のほか、既存の「福祉施設や」観光施設などへの「複合化」ということで修正をしております。

以上、修正と追加の部分の説明になります。

#### ○鈴木会長

今説明を受けましたけども、ちょっと量が量なのでまず最初に 1 ページ目の「はじめに」を見て、何かこれまでの議論の中で、ちょっとこれも加えた方がいいとか、何かこの修正についてはどうなんだろうとか、そういう部分について委員の方からお話いただければと思うんですけどどうでしょうか。

ここがいわゆるこの答申全体の一つの括りという形で整理をしたという事務局の話ですけども、大体この内容を見て、以下のこの答申の部分に繋がっていくかどうかという辺りはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

《なしの声》

「はじめに」の部分についてはこのような内容ということで確認をしておきます。

次に第 1 部「総論」ということで、これは各種の計画なので、これについてどうこうというものはあまりないかなと思うんですけど、こんな流れで、この「総論」ということで位置づけているということで、確認をしたいと思います。

これについてとなると、またちょっといろいろありますので、第 1 部の「総論」を受けて第二部「各論」に入っていきます。ここからいろいろと確認の意見等が示されているかなと思うんですけど、最初に 21 ページから、いわゆる特色ある学校づくりということで、ワークショップでいろいろと各委員と熟議してきたというところですね。このあたりを掲載しています。最後は小中一貫制度導入に向けてという、31 ペー

ジの上の部分まで。何かちょっとここ漏れ落ちてないか、とかこのあたりどうだろう、とかいうのがもし委員の方であればお出しください。

21 ページから 31 ページの頭の部分までですね、2 の教育関係の上の部分までで、この中では、最初ハード面、ソフト面という、付箋を貼っていろいろやり取りをしながら、24 ページの下の方でも事務局の方で作成していただき、7 つのキーワードというんでしょうかね、この部分を整理しながら議論してきたという感じだと思います。子どもたちにこういう力をつけてもらいたい、その上で、小中一貫制度の導入については、というところですね。はいどうぞ。

#### ○委員

先ほどのお話にスケジュール感という話もあったと思うんですけど、まず 30 ページの計画や導入時期等について、今回出た意見として早急に行っていくべきこと、委員会や話し合いなりにこういう議題を持っていくというか、決めていかないといけない、そういう文言があってもいいのかなというふうに思います。

あと、予算について、何か 1 個目はわかるんですけど、2 個目が施設のことなのかな、ちょっとわかんないんですけど、予算をつけていかないとやっぱり物事動いてはいけないので、先ほどの話にまた戻りますけども、やはり計画を立てていって、それをどう実現していくかというのを答申に混ぜ込んでいいのかどうかわかんないけど、具体的な文言が思いつくわけではないんですが、先ほど皆さんのお話に出たところの、教育に予算を使ってほしい、というところは今あるんですけど、それをもっと具体的に、こういうふうにやっていくというのをみんな望んでるよ、というところを入れていただければと思います。

将来的に子どもがいなくなるのはもちろんですけど、今いる子どもたちが大事なので、その子たちに良い教育を与えたいというところが根本にあるんで、ずっと話し合っても 5 年後、また同じことを話し合って、変わってないねって、だから先ほどの委員の話にあったように、進捗状況がわからないと、ここまで進んでるんだねとか、この答申はこういうふうに進んだんだねっていう確認を町がしてないのかなって思います。

平成 25 年度の「学校のあり方」についても、統廃合の話をしてますけど、それどこまで進んだの。10 年経ってやっとまたこの話になってるの、話し合っただけっていうのが一番嫌なので、やっぱり予算に反映させてほしいとか、どこの委員にかけるんだとか、そういうところも含めて、この 1 年が無駄にならないように、こういう話し合った結果はあと 1 年で実現しなきゃいけないんじゃないかなとは思ってはいるんです。こういう話し合いで 1 年間かけちゃったら、なんかどのぐらいの時期にこれが実現するのかと実際本当に思います。

#### ○鈴木会長

具体的な文言や表記をどこまで入れ込めるかというのが、多分事務局サイドの部分ですけども、こういう会議や、ここまでにこういうイメージというものや、予算についてという項目が一番委員では気になるところですけども、そのあたり事務局どうで



すか。

#### ○山本教育指導参与

今後の少子化が進む中で、財政的な問題も含めながらということで、どのように実現を目指していくのかというのが課題になっていくのかなと思います。

平成 25 年度の部分からというところでも、そこで話し合った内容がそのままというところではなくて、今後この計画を進めていく中でも、実際にハード面、ソフト面も同時に進めていっているところではあります。皆様のワークショップで出た部分も含めて、今後ふるさと教育をどう実現して充実させ、どう生涯学習に向けて、というようなどころでの仕掛けというようなどころも含めて、今、動き出しているところであります。

進捗状況も含めて、今後の 5 年後、10 年後、教育ビジョンも含めて皆様にこの進捗状況を報告しながら、次の教育ビジョンに向けてというようなどころで、幅広い部分から今後の洞爺湖町の教育について、というようなどころは継続してご審議いただく部分と考えております。現時点という部分と、短期的なスパンというところもあると思いますけど、より長期的なところからという視点をいただきながら進めていければと考えております。

予算的な部分に関しましては、こういった方針をベースに、これはもう財政との調整というところになっていくと思うんですけど、ただ、その子どもの教育にどれだけというようなどころは、今後折衝的なところになってくるのかなと思います。

#### ○鈴木会長

例えば 30 ページの 3 つ目のキーワード「計画や導入時期等について」という項目があって、この辺りに例えば、虻田中と虻田小の併設は令和何年度から、とかいう具体的な数値を入れ込むとか、そのあたりが数字で見えてれば、スケジュール感というものなのかなとちょっと今思ったところで、ただ予算については、なかなか難しいです。この辺りは例えば「予算について」では「様々な問題を先延ばしするのではなく、教育予算の確保をお願いしたい」というフレーズをもっと強めの表現にするとか、あと、31 ページの上の方で「教育委員会においてスピード感をもって制度の導入に向けた取組を進めていく」という、そのスピード感を持ってというところを、スケジュール感が伝わるような表記で工夫するかすれば、具体的な数字は出せないけども、何か答申案として強くメッセージ性を持たせられるのかなと思うんですけども、どうでしょうかね。

#### ○委員

いいと思います。委員会にやる気を起こさせるんじゃないかと。やっぱり目標を出しちゃうと、やらなきゃいけないから多分いいと思う。

昔洞爺で子どもがいっぱいいいた頃に、ダンプが砂利運ぶときに道路が危ないから歩道をつけてくれと要請したんですよ。けどなかなかできなくて、できた頃には、子どもがいなくなってた。

だから今、現実子どもを育てる方々は真剣だと思うんだよね、この教育環境をどうしてくれるんだっていうことで。だから、もう悠長なことは言っていられないって気がするんですよね。1年でも早くそれを実現させるよう努力してもらいたいと思います。

#### ○鈴木会長

そこら辺は事務局の方でも検討していただきつつ、あと、さっき学校運営協議会でアンケートを取るということもあるので、そういう声も基礎データとして収集していくことも一つ大事なと思うので、そのことも絡めながら、ぜひよろしくお願いしたいなということを委員の皆様と共有したいと思います。

あと、どうですか。31ページの上までの中で、自分が述べたところの表記であるとか、その辺りも含めてよろしいでしょうか。

《なしの声》

それでは、31ページの2の教育環境の向上に関する総合的な方策のところからですね。

ここは学校教育施設と社会教育施設を合わせての流れになっているので、学校教育ということで、校舎、給食センター、プールもですね、学校教育、社会教育の施設が混在していますけど、このあたりで何かあればお出しください。

#### ○委員

42ページの赤字で追加している部分ですが、

「規模的に可能であるならば同じ町内の児童生徒として同一の給食を提供することが望ましい」という意見ってありましたか。僕はちょっと記憶にないんですけど。

最後の方にすごくいいなと思ったのは、洞爺地区は、食育に力を入れているから、虻田地区が伊達や豊浦なりと給食を続けたらいいんじゃないですか、という意見があったと思うんですが、これ正反対のことが書いてるなと思って。

#### ○山本教育指導参与

ご意見というところで、ここに書いてあることがこういうふうになるということではなくて5年後、10年後を見たときのご意見というところですよ。

今後の検討委員会の中で具体的な話になってきますので、ここに記載されているからというようにどこでこういうふうになるということではないということを押さえていただきたいと思います。

#### ○委員

それであるなら、これはいらないんじゃないかなと思うんですけど。

#### ○山本教育指導参与

長期的スパンで見たときに、近隣市町を見ましても、例えば室蘭、登別であれば西で1つというようにところもある中で、今後、子どもの数が少なくなったときに、こ

ういった可能性もあるというようなところでの選択肢の一つとして押さえてほしいと考えています。

○鈴木会長

今の委員の話は、規模的に可能であるとかどうかという部分が違う、というところで、そういう意見が出されたかどうかというところですが、これは将来的に外部委託も選択肢の一つ、という話は出されていましたよね。

○委員

委員がおっしゃったように、洞爺地域での食育に対する取り組み、農家さんと生徒との関わりはすごくいいアイデアだと思って、確かにそういう意見も出ていたので、もしこの部分を入れるのであればそれもしっかりと入れ込まないと、貴重な大事な意見のような気がするんですよ。

全部一緒にまとめるではなく、良い取り組みをしているところはそれで伸ばすべきだ、という意見もあったはずなので、ぜひ入れてもらった方がいいですよ。

○委員

学校給食のお話と予算面もあったんですけども、子どもたちの成長がどんどん進んで、多分この食育とか地産地消の問題っていうのは今から15～16年前に若いお母さんを中心に、地域の人たちを中心に、もうすごいスピードで熱心に何回もお話し合いされて、ある程度形づくられていると思うんですよ。そういうことから考えると、私個人としては、外部委託という話もあったんですけど、それはいろんなやり方が確かにあるけれども、洞爺湖町としてはこうしたいっていうことが必要なんじゃないかなと思うんですけどね。

これは一つの参考としてはいいかもしれないけれども、熱意としては逆に弱めてしまうんじゃないかなというふうに思うんですけどね。

○鈴木会長

洞爺地区の話については、その枠組みの上から2つ目の点の、「洞爺地区は」というところに、長年にわたり地域一帯云々ということで、地産地消を含めて記述されている部分があるということなのでそこで1つ、今言ったように外部委託も選択肢の1つではないかというところで1つ、と分けておいた方が、食育というのは大事だというのはワークショップの中でも出されていましたので、洞爺湖町内の地産地消の関係もあるということで、この洞爺地区についての項目をより大事にしていくような表記と、あとは、将来的に外部委託ということも検討していくことがあるという、そのあたりをちょっとこの案の中に入れておくことで、今の委員の話はこの答申の中に入れ込むことができるかなと思うんですけども、事務局どうですか。

○山本教育指導参与

これまでの審議会の中で、洞爺地区の食育は当然認識しているところです。その記

載の部分を含めて、今後の少子化の部分に関しましては長いスパンで見たときの選択肢としてということも含めて、今後の検討委員会の中で具体的に進めていければなと考えています。

#### ○鈴木会長

下から3つ目の点も、洞爺地区の給食センターについての記述があるので、かなり洞爺地区の食育を中心というのをここで議論されたということも大事にしていきながらというところで、この部分についてより整理をしていただくということでいきましょう。

#### ○委員

私が気になっているところで、外部委託を選択肢の一つとすることの理由が、その2行目の「同じ町内の児童生徒として同一の給食を提供することが望ましいと思うことから」というところで、要は全部を外部委託にするという表現に繋がってしまうような気がして、洞爺は洞爺、虻田は虻田に分かれてもいいという思いで言ってた記憶があるんですけど。だから、全町が同じものであるという必要が本当にあるのかどうか、それを理由にして外部委託とやると、外部委託するときは全部いっぺんにやっちゃいましょうか、というふうに捉えるのがなんかちょっと引っかかるところです。

#### ○委員

虻田の学校給食センターは耐用年数も過ぎて、洞爺給食センターの改修工事の予算を立てたけど、教育委員会が見立てた額の10倍以上の値段で、話がそのまま保留になって、両者皆さんが集まっていろいろ地産地消のこととか、食育のこととか話し合ったけど、その予算の問題でぐらついてしまい、それが保留になって結局現状維持のように虻田と洞爺となったんですよ。

だから、その経緯がどういう感じで、長い間そうなっていたのかというのが大きな問題だと思うんですけど

#### ○山本教育指導参与

40ページに学校給食センターのこれまでの経緯というところで記載させていただき、ここからの部分ということで進めているところなんですけど、現時点の老朽化ということも踏まえてどうなのか、ということもありながら、長いスパンで見たときに一つの選択肢とさせていただきます。

#### ○委員

この会議のときにちょうど意見を述べさせてもらったんで、よく後からまた調べて考えたんですけど、2つあって。

予算の問題、もう一つは有珠山が噴火したときは、虻田給食センターはその位置では駄目だっていう結論は出てるんですよ。だからそういう決定的な二つの事項がありながら、もしかしたら噴火が来るかもしれないのに、また違う方法で虻田を存続

させるということも考えられているのでしょうか。

○山本教育指導参与

意見の中では、段階的というところもあるところですよ。虻田給食センターに関しましては老朽化が著しいと考えています。ただ、先ほどもお伝えしたように、長期でとなったときに、今ある学校がより統廃合したときに、給食センターの部分もという選択肢はあるのではないかとこのところで、これが現実的になるかどうかというのは、今後の検討委員会の中で具体化していくと思います。

○委員

これあれですよ。長期的にということなんで、その次にとかではなく、例えば最終的に学校が1校になったりとか、2校になっていくとか、多分今後統合とかの話が現実的になってきたその先のこともかもしれないということで、多分予算とコストと効率面とかいろいろ考えての意見ではないかと私はちょっと思っているんですけど、今すぐこうしましょう、ということではないのかなというふうに思っているんですけど、どうですか。

○山本教育指導参与

そうです、今後の先を見据えたときにということですよ。

○鈴木会長

41 ページの上の方に、今後、考えられる例として、ということで。6 番に「民間委託」という項目があって、当時出されたもので、それがなかなか具体的に進んでない中で、この審議会で給食センターの施設をどうするかという議論があったので、食育が大事だとか、今後どうするかという議論がされてきたという経緯があるので、今委員が言われたように、今後将来的に学校が一つになるとか、そんなことも含めて、なったときのいわゆる将来的な外部委託であるとか、何かそのあたりの表記になるような書き方をしておいた方が無難なのかなと思うので、そこは文章を検討していただいて、ということでもよろしいでしょうか。

なかなかそれぞれの地区のこれまでの歴史的なものとか、こういうのを取り組んできたっていうのがそれぞれあるので、それをぜひちょっと絡めて整理していくことは一つあるかなと。ただ、これはあくまで答申というか指針ということなので、これは委員の中から出されてきた一つの意見として整理していただければいいのかなという感じがします。

あとよろしいですか

《なしの声》

諮問を受けてこれまで2回目から8回目まで、皆さん方委員といろいろやり取りしながらの内容を事務局で整理していただき、この答申の案という形で今各委員の方にも見ていただきました。さらにまた修正をかけなきゃいけないところもありますので、そのあたりはまたよろしくお願ひしたいというふうに思います。

それでは、議事の2、答申（案）の内容についてはこれで終わりたいと思います。  
次第5、その他とありますので、何か事務局の方であるでしょうか。

○山本教育指導参与

今回ご意見いただいた部分の修正に関しまして、事務局で修正し会長へ確認をしていただき、会長一任ということで提出してよろしいでしょうか。

○鈴木会長

部分的に修正が出てくる可能性があるということで、その部分を私の方で一任させていただくという形でよろしいでしょうか。

《なしの声》

それでは、事務局より上がってきたところで、私の方で確認をして、最終的に答申という形で整理をし、諮問を受けた教育長にお渡ししたいと思いますのでお願いします。

それでは、最後ですけれども冒頭に教育長からお話がありました。この審議会としてはとりあえずこれで整理され、今後はいろいろ出てきた内容について、もしかしたら審議会の召集がかかる可能性もあるかもしれませんが、これまで9回やられたということで、私も令和5年の11月に1回目が始まって、社会教育施設等々この町内の施設を見させていただきながら、皆さん方と洞爺湖町の子どもたちの将来的なことを見据えていろいろ議論させていただきました。各委員からいろんな角度からお話いただいたこと、本当に感謝申し上げます。

これから10年、20年、洞爺湖町がどういう方向にいくのか、私はいわゆる洞爺湖町の町民ではありませんので、なかなか難しいところですが、まさに各委員の皆さん方が地域におられて、目の前の洞爺湖町はどうなのか、そこにいる子どもたちがどうなのか、ということを引き続き見ていただきながら、ぜひ何かあればまたこういう場や各委員の関わっている組織の中で声を出していただきながら、より良い子どもたちの健全育成ということも含めてお取り組みいただければありがたいなと思います。

本当に拙い進行で9回までお付き合いいただきありがとうございます。一応こんな形で諮問を受け、答申という形で整理させていただいたことを、各委員の皆様方に感謝申し上げます。

本日はこれで終わりたいと思います。どうもご苦勞様でした、ありがとうございます。